



牧水の酒の歌(自筆色紙を展示中)

酒を愛した
若山牧水



牧水が最後まで愛用した酒器
牧水の棺に入れられ一度火葬されたが、割れずに帰ってきたため、その後大切に保管されている。茶毘をくぐって、絵の青さがいっそう増したともいわれる。

白玉の齒にしみとほる秋の夜の

酒はずかに飲むべかりけれ

おもわず美酒を味わいたくなるこの歌は、明治43年、若山牧水が当地で詠んだものである。牧水といえば酒で、旅の先々で杯を重ねた。佐久でも、たくさんの酒を味わったようだ。

旅先で友と酌み交わす酒くらいうまいものはない、と牧水はいう。牧水には300首ほど酒の歌がある。まさに「酒の歌人」である。

かんがへて飲みはじめたる一合の

二合の酒の夏のゆふぐれ

人の世にたのしみ多し然れども

酒なしにしてなにのたのしみ

牧水は43歳の若さで没する。死因は急性肝硬変であったという。酒が牧水の死を早めたことは疑いがないが、牧水にとっては本望だったのかもしれない。

企画展 牧水 幾山河

■11月26日(日)まで 必見! ■浅間縄文ミュージアム 常設企画展示室

御代田町の人口(10月1日現在)

●人口 14,181人(先月比-5) 男7,112人女7,069人

●世帯数 5,453世帯(先月比+1) ●外国人登録者数 787人

みよた広報 やまゆり ●発行/御代田町 〒389-0292 長野県北佐久郡御代田町大字御代田 2464-2 ☎0267-32-3111